



新型コロナウイルスの蔓延の中で、東京オリンピック 2020 が開催され、日本選手の活躍に元気をもらった方も多かったことと思います。

セミナー・講演会につきまして、本当は、対面で様々な先端技術とその産業化の取り組みを紹介したいのですが、現在の状況下では、Online 開催が中心となりそうです。

さて、本年度の東北ハイテク研究会講演会「稲作のスマート農業戦略～ドローンセンシングによる稲作診断技術の開発～」を7月9日（金）に91名の参加者を得て開催することができました。ニュースレター第53号では、この講演会の概要についてお知らせします。

セミナーの目的

農林水産省は、平成30年度から新たに、「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」および「スマート農業加速化実証プロジェクト」をスタートし、これまで全国 179 地区でスマート農業技術の導入に関する実証が実施されています。東北地域からも令和元年度に10件、令和2年度4件、令和3年度も4件が採択されています。さらに、「労働力不足の解消に向けたスマート農業実証」でも3件が採用され、東北管内で広く農家を巻き込んでスマート農業の実証が行われています。

スマート農業技術の中でも、特に応用範囲が広く比較的手軽に取り組めるドローンの活用に対する注目度は高いと思われます。今回、ご講演をいただいた株式会社ファーム・フロンティア代表取締役会長・藤井弘志氏は、『匠の技術継承と農業の新たな進化』を目指して、2018年の会社設立以来、日本農業の課題である高齢化、後継者不足による労働力確保と異常気象による気象災害にさらされている農家に対し、ICT 技術を活用したセンシング農法による省力化・効率化と、ベテラン農家のノウハウが見える化しその技術を活用することを目指して活動を展開しています。また、“見える化”の一環として土壌データの収集・分析を通じ、土づくりの実践を支援しています。

今回はスマート農業技術の一つの方法である、ドローンを活用した施肥・防除の最適化のための方法について広く情報提供するため、講演会を企画しました。

開催の日時と場所

日 時：令和3年7月9日（金） 15:15～16:30

開催形態：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

主 催：農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室
東北地域農林水産・食品ハイテク研究会

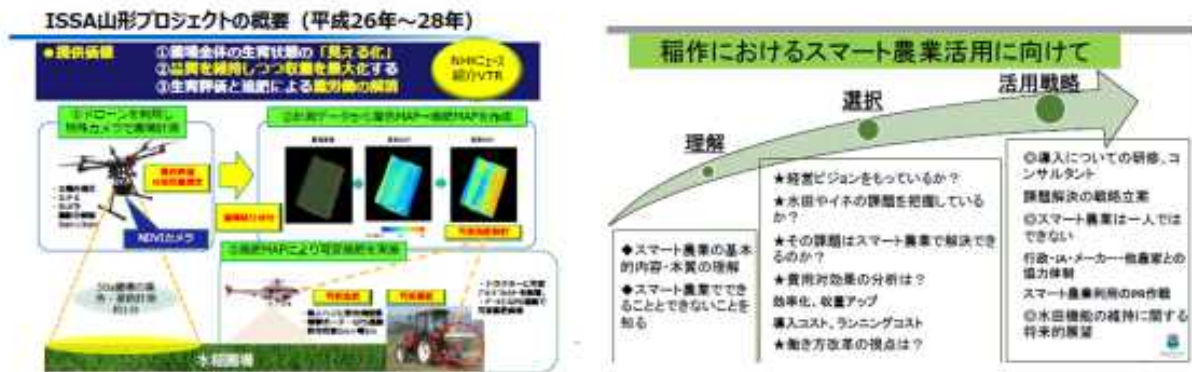
参加者数：91名

プログラム

演者：藤井 弘志（株式会社ファーム・フロンティア 取締役会長、山形大学農学部客員教授）
講演テーマ：『稲作のスマート農業戦略～ドローンセンシングによる稲作診断技術の開発～』

講演内容

講演では、日本農業の近未来予測に基づき、スマート農業の重要性、その本質と活用戦略を整理しています。スマート農業にはハードとソフトの両方の技術があり、その統合の重要性を強調されました。特にソフト主体のスマート技術の活用においては、センシング・センサーによる見える化、AI、ビッグデータなどの情報利用の重要性を示すとともに、センシングのための戦略と稲作での活用方向を具体的な活用例に従ってわかりやすく説明されました。



藤井氏講演資料より抜粋

さらに、作物の能力を最大限に発揮するためのスマート農業による圃場間、さらには1つの圃場内部での生産力のバラツキの発見と改善方法について報告が行われました。

以上の報告に基づいて、東北ハイテク研究会の齋藤雅典中核コーディネータの司会で、Zoomの質問・チャット機能を活用して参加者との質疑討論を行いました。

講演は稲作の現場が抱えている問題をスマート農業技術、特にドローンを活用していかに克服していくかという実践的な内容であり、多くの参加者の興味を惹くものでした。

なお、本セミナー資料を当研究会のHP(下記URL)に掲載していますので、ご参考にいただければ幸いです。

<http://tohoku-hightech.jp/seminar.html>